

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101372		
法人名	社会福祉法人せいひ会		
事業所名	グループホーム 翠風		
所在地	長崎県西海市西彼町中山郷2116番地		
自己評価作成日	平成22年12月20日	評価結果市町村受理日	平成23年4月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成23年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所の理念にも謳われていますが、ご利用者の方々に「最後まで人間らしく生きてもらうこと」をモットーとして日々の業務に取り組んでいます。サービスの提供においては常にその「動機」、つまりなぜそのサービスがご利用者に必要なのかを考え、ご自分のペースで生活していただくことが、生活の質の向上にもつながると思います。ご利用者を被介護者として位置づけるのではなく、ともに暮らす生活共同体として位置づけることで、様々なニーズが発掘できたり、信頼関係が構築されていくのではないのでしょうか。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは穏やかな地域のなかに広大な敷地を持つ法人の一角にある。外観は平屋の一軒家で、自宅を住み替えたかのような。組織として多くの委員会、研修会の開催、医療や行政の連携を取りながら、グループホームは独自性を持った活動を行っている。職員は利用者がその瞬間を楽しむための提案をし、実践している。また、外部からの意見は真摯に受け止め、検討し積極的に取り組んでいる。家族が利用者と同じ合える場面を多くつくり、家族と利用者の絆の支援に重点を置いている。介護計画作成にも家族と共に作り上げる体制がある。「最後まで人間らしく生きてもらう」という理念を実践しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	グループホーム独自の理念を掲げ、ご利用者それぞれの生活環境をふまえながら、その人らしく暮らせることを大切に、共有を図っている。	「最後まで人間らしく生きてもらうこと」という理念を掲示している。職員は理念を基に目指すべき方向を一丸となって話し合っている。利用者が集団でありながら個別の生活を人間らしく過ごせるよう、また自宅のように過ごせるよう、身近なことから実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣神社での夏祭り参加をはじめ、地域保育園での運動会や地元地区と合同での敬老会や新年会を開催し交流している。	近隣神社の祭り等に事業所として参加している。また、地域保育園の運動会や西彼地区の合同敬老会に参加し地域との交流に努めている。近隣高校の職場体験を受け入れており、その体験者が事業所に入社した事例もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事の参加に加え広報誌にて紹介している。また、ホームページの公開も行っており、誰もが閲覧できる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員をはじめ地域住民やご家族様が参加して実施しており、防災対策や外部評価の概要説明等議題は様々である。	2ヶ月に1度の規程メンバーによって行われている。参加者の中に駐在所の職員も含まれており、行事報告や地域の状況報告が行われている。防犯事例の他、他施設の良い取り組みを支援に取り入れるなど活かしている。ただし、会議の内容を家族へ知らせていない。	運営推進会議の内容が充実しているため、出席していない他の家族へ向けて報告を行い、ホームの取り組みを知ってもらうよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の開催によりかわりをもっているほか、法人総務部を通して行っている。	行政との連絡は法人総務部が行っており、その情報が各施設に伝達される体制が出来ている。西海市における介護の現状に関する講話を受けている。実情やケアの取り組みを伝え、協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を中心とする委員会活動をはじめ、日頃から啓発活動を行っている。	法人で身体拘束委員会を持ち、月1回の会議を行っており、内容は職員間で共有している。玄関の鍵は夜間のみである。玄関のチャイムはあるが、頼る事の無いケアが出来ている。声掛けについても一言加えて対応する等拘束のない支援への工夫が見られる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より身体拘束廃止委員会やマナー向上委員会等の委員会活動を中心に啓発活動を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会があれば研修会等に参加して成年後見制度について学ぶとともに、会議等において職員に伝達している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用約款に基づき、利用契約時だけではなく、都度、疑問点がないか尋ね、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居の際は利用約款により事前に相談窓口を説明しており、ご意見箱の設置も行っている。	利用者には食事時間や畑作業の時を利用して、家族には面会時や電話連絡の時に意見・要望を聞くよう取り組んでいる。意見箱を玄関に設置している。外出支援や今後の在宅支援や施設転移についての相談を受けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り時に職員の意見を聞く体制があるほか、月に一度、グループホーム職員で構成する会議を実施し、意見の反映に努めている。	月に1度の職員会議で意見や要望を聞いている。利用者の介護拒否・暴言に対する対応方法や利用者の安全面を考慮した縁側の踏み台設置等、意見・要望が出て対応している。また、職員の有給休暇消化も要望に沿ってシフトを検討し取れるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の努力や実績、勤務状況等を把握しており、法人総務部をもって体制を確保している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修案内は掲示板に掲示し、積極的な参加を促している。また、研修の参加者は報告書を提出し、同じように掲示板に掲示することで情報の共有ができています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今後の課題の一つとしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本的に、サービスのご利用以前に実際にご本人様を訪問し、ご希望をうかがうことからはじめています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に際しては必ずご希望や疑問点がないかをおうかがいし、また入居後も継続して行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内の他事業所とも十分に協議して、ご家族にも説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様を介護される一方の立場におくことなく、職員も暮らしを共にする生活共同体として、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族もご本人様を支援し得る対象としてとらえ、ともに支えあう体制づくりに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご希望によって外出支援することに加え、墓参りや、美容室の利用等、ご家族にも呼びかけて協力を得ている。	生活歴の聞き取りや家族からの情報を取り入れている。家族の協力を得て墓参りや馴染みの美容院の利用、外出や外泊など行っている。事業所には家族や知人の訪問があり、そのほか電話や手紙の代筆等の支援を行い関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者一人が孤立してしまわないように、集いの場所も設けており、必要に応じて支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当事業所のほか、法人全体でもかかわり、必要に応じた支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自然なかたちでご希望を引き出すように意識し、個別での対応により検討を行っている。	利用者と個別に会話をする場面を多く持ち、思いや希望聞いている。型にはめないケアに努めている。困難な場合は、家族等からも意見を聞いている。職員は介護日誌や申し送り時に情報の共有を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に他事業所やご家族、ご本人様より情報を収集するとともに、日々の生活や暮らしの中から引き出すように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人それぞれの有する能力、心身状況を念頭におき、できない部分を介助するケアの提供に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活によりご本人様の希望を聞きだしたり、ご家族の面会の際には話をうかがう等、立案に反映させている。	介護計画は3ヶ月に1度の見直しを行っている。毎月カンファレンスを行っている。面会時に家族の要望は聞き取っており、サービス担当者会議では職員の意見の他に利用者や家族の意見を取り入れている。医師からの意見も反映している。完成した計画は家族へ説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護記録として残すことで共有できており、それらの情報を参考にしながら介護計画の見直しも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の希望に応じて展望風呂での入浴や書道クラブへの参加も可能となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域保育園での運動会や夏祭り参加、近隣中学校・高校からの実習受け入れ等を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に、ご本人やご家族と話し合い、かかりつけ医を決定している。かかりつけ医からは十分な協力体制が得られている。	利用開始時に協力医療機関の話を行い、同意があれば変更している。協力医療機関以外の場合受診は家族対応となっているが、職員が代行する時もある。受診内容は家族から職員が報告があり、申し送り時に共有している。協力医療機関との緊急時の協力体制もとられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所の看護職員ほか、併設老健の看護職員、並びに協力病院の医師と24時間体制で対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院医療機関の医師やワーカーと随時情報交換を行い、早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、等事業所も多様なサービスの種別のうちの一つであり、本人様にとってより良い環境でサービスを受けられる体制にあることを説明している。心身の状況変化に応じて随時対応を検討する。	重度化や終末期のケアに対する事業所の方針は、利用者が入居するときに説明をし同意書を作成している。看取りの事例はある。職員は外部研修を受講しており、訪問看護師からの話など支援に向けた取り組みを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については日頃より周知しており、場合によっては併設老健施設の看護職員の応援も得られるようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災対策委員会を中心に避難訓練を実施しており、法人内の隣接施設のほか、消防の協力も得ている。	年2回避難訓練があり、夜間想定も消防署の立会いのもと行われている。法人の防災対策委員会が年6回開催されており、年2回は消火訓練、連絡通報訓練となっている。避難誘導確認ボードなどの工夫もあり、自然災害の備え、対応は法人全体で行われている。ただし地域へは訓練報告にとどまっている。	同敷地内に法人施設があり、防災対策委員会での連携が取られているが、地域との連携として地域消防団との訓練など検討することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけや介助時の対応マナー等を、全職員で見直し、ご利用者を人生の大先輩として敬う姿勢を大切にしている。	利用者一人ひとりが人間らしく生活できるように尊重した対応を行っている。マナー向上委員会では利用者との自然に接するケア等について話されている。家族との話し合いは居室で行っている。職員はプライバシー保護に関する誓約書を作成しており、家族には写真の使用許可を取っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者自身が選べるような自然な声かけ、支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活のリズムが崩れないように、ユアペースの精神で見守りや声かけに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	併設老健へ月に一度美容師の訪問があり、ご希望に応じて利用している。ご家族とともに外出し散髪される方もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事の際の調理をはじめ、ご利用者の要望は給食会議で反映できる体制にある。また、ご利用者と職員と一緒に食事を摂ることで、食材にまつわる話等もできている。	毎月給食会議で献立やソフト食の要望を行い、食事伝票で個々の嗜好や医師の指示にも対応している。献立に旬な物や庭で作った野菜を取り入れており、外食をしたり、季節の行事食では鍋物や桜餅等みんなで作る食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録により摂取量の把握に努めており、状態に応じたソフト食の提供や摂取量の少ない方には捕食や飲み物を変えて提供する等の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者の状態に応じて声をかけており、必要によっては磨き直し等の介助を行っている。入れ歯洗浄剤を使用する方もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状態により必要と思われる方にはチェック表を作成し、排泄パターンの把握に努めている。	排泄チェック表を作成し、利用者ごとの排泄パターンを把握している。トイレへの誘導について自立に向けたケアができるよう検討している。パッドや紙パンツからの軽減に向け検討し支援に努めており改善事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹圧をかけたり散歩を行ったりして取り組んでいる。また、随時水分補給をすることに加え、毎朝乳製品を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の回数や曜日もご利用者それぞれであり、ご希望があれば法人内の展望風呂も活用できる。	毎日入浴の準備が行われている。一人週3回を目安に声をかけている。希望があれば毎日入浴できる。拒否には声かけや時間を変えて強制はしないよう支援している。柚子湯や菖蒲湯を取り入れたり、同性介助や好みのシャンプーなど入浴を楽しむ支援を取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の生活においてラジオ体操やレクリエーションでリズムをつくり、必要な方には空調や夜間の飲み物提供を行い安眠を促進している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員により指示を得ているほか、ケース記録内に薬表をファイリングして常に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、行事や洗濯たたみ等において、自然と役割が分担されている。またレクリエーション参加や、買い物バスも活用している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望に応じて買い物バスが活用できることに加え、ご家族の協力を得て外出、外泊を奨励している。また、バスハイク等により外出を支援している。	周辺地域の公園に散歩や、敷地内の別施設の友人に会いに出掛けている。また、季節に応じて花見や紅葉狩りなどに出かけたり、外食に出かけており、家族へも声かけし協力を得ている。法人の買い物バスで買い物に出かけるなど戸外へ出る支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で財布を所持されている方もおられるほか、売店の活用等で金銭が必要な場合は、総務部より引き出しながら使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて介助を行っており、手紙は総務部にて預かることができる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りには季節ごとに草花を植え、家庭的な雰囲気を演出している。また屋内には行事の光景を写した写真を掲示し、穏やかな空間を作っている。	ホーム内は季節の飾り付けや行事の写真など飾られ、利用者が自由にくつろげるコーナーがリビングの他にある。廊下やトイレは広く、利用者が活動しやすく、全体的に明るく、不快な音もない。毎朝職員が清掃をしており、換気や室温の管理が行われ快適な空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、ソファ、椅子等、形の違う場所を確保し、自由に過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力を得ながら使い慣れた物の待ち込みがある。自分の部屋として安心して過ごしていただいている。	使い慣れたタンスやベッド、テレビなど自由に持ち込める。配置も利用者毎に対応されており、居室で過ごしやすい配置になっている。利用者の目線で写真や季節の飾り、位牌なども飾られている。毎朝の清掃は主に職員が行っており、換気や室温管理もできており居心地のいい居室となるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事の際には専用の椅子を準備したり、入浴の際には滑り止めマットを活用する等、安全性に配慮している。		